
平成21年3月期第2四半期 決算説明会資料

平成20年11月18日



(JASDAQ・コード:6425)

免責事項

本資料には当社及び関係会社の計画、見通し、目標、予想数値等の、将来に関する記述が含まれている場合がございますが、これらは現時点で入手可能な情報に基づく判断、及び仮定に基づいており、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、将来における実際の業績は、今後の事業環境、経済状況、金融市場の状況、その他の様々な要因により、上記詳細に関する記述の内容と大きく異なる結果となり得ることをご承知下さい。

目次

【Ⅰ】平成21年3月期第2四半期 連結決算概要

- ①要約連結損益計算書……………5
- ②要約連結貸借対照表……………6

【Ⅱ】3大コアビジネスの今後の展望

- アルゼの長期ビジョン……………8
- ①国内パチスロ・パチンコ事業……………9
- ②海外カジノ向けゲーミング機器事業……………11
- ③カジノリゾート運営事業……………12
- 平成21年3月期業績予想……………16

【Ⅲ】参考資料

- 会社概要……………18

【 I 】 平成21年3月期第2四半期 連結決算概要

①要約連結損益計算書

単位:百万円

科 目	H20.3期	H21.3期 第2四半期	H20.3期 第2四半期	前年同期比		
				差異	増減率	主な増減要因
売上高	72,133	10,593	37,495	△26,902	△71.7%	パチスロ機導入台数の減少
売上原価	31,671	5,675	15,756	△10,081	△64.0%	パチスロ機導入台数の減少
売上総利益	40,462	4,918	21,738	△16,820	△77.4%	パチスロ機導入台数の減少
販売費及び一般管理費	24,374	12,160	12,367	△207	△1.7%	
営業利益又は営業損失(△)	16,088	△7,242	9,371	△16,613	△177.3%	パチスロ機導入台数の減少
営業外収益	7,778	7,348	4,928	2,420	49.1%	持分法投資利益の増加
営業外費用	555	659	178	481	270.2%	為替差損の影響
経常利益又は経常損失(△)	23,311	△553	14,121	△14,674	△103.9%	パチスロ機導入台数減少
特別利益	20,394	377	4,337	△3,960	△91.3%	
特別損失	2,795	284	1,378	△1,094	△79.4%	
税金等調整前四半期(当期) 純利益又は純損失(△)	40,910	△459	17,080	△17,539	△102.7%	パチスロ機導入台数の減少
税金費用	2,932	834	1,661	△827	△49.8%	繰延税金資産取崩し
少数株主損益	△107	0	42	△42	△100%	
四半期(当期)純利益 又は純損失(△)	38,086	△1,294	15,461	△16,755	△108.4%	パチスロ機導入台数の減少
1株当たり四半期(当期)純利益 又は純損失(△) [円]	476.52	△16.19	187.75	△203.94	△108.7%	

②要約連結貸借対照表

① 資産

単位:百万円

科 目	H20.3期末
流動資産	108,543
現金及び預金	32,613
有価証券	23,391
固定資産	76,267
有形固定資産	19,764
投資その他の資産	55,443
資産合計	184,826

H21.3期 第2四半期	前年期末比		
	差異	増減率	主な増減要因
51,117	△57,426	△52.9%	
5,459	△27,154	△83.3%	
832	△22,559	△96.4%	
113,249	36,982	48.5%	
20,513	749	3.8%	
91,811	36,368	65.6%	
164,378	△20,448	△11.1%	

② 負債・純資産

単位:百万円

科 目	H20.3期末
流動負債	27,849
短期有利子負債	3,222
固定負債	9,650
長期有利子負債	5,069
負債合計	37,499
株主資本	147,584
評価換算差額等、新株予約権、少数株主持分	△257
純資産合計	147,327
負債純資産合計	184,826

H21.3期 第2四半期	前年期末比		
	差異	増減率	主な増減要因
21,949	△5,900	△21.2%	
7,814	4,592	142.5%	短期借入金の増加
6,671	△2,979	△30.9%	
3,085	△1,984	△39.1%	
28,621	△8,878	△23.7%	
141,493	△6,091	△4.1%	配当金の支払い
△5,737	△5,480	△2,132.3%	為替調整勘定の影響
135,757	△11,570	△7.9%	
164,378	△20,448	△11.1%	

【Ⅱ】3大コアビジネスの今後の展望

アルゼの長期ビジョン ～グローバルエンターテインメント企業へ～



1. 国内パチスロ・パチンコ事業



【パチスロ】



【パチンコ】

5号機におけるポジショニングを維持しながらパチンコ市場への再参入を果たし、安定収益事業として確立

2. 海外カジノ向け ゲーミング機器事業



新規市場開拓成長分野

3. カジノリゾート運営事業



ウィン・リゾーツ社への投資に加え、カジノリゾートの独自構想を進行中

①国内パチスロ・パチンコ事業

Q2の業績

- ◆ユーザー離れ・ホール店舗の購買意欲の低下が止まらず、パチスロ機の市場規模がさらに縮小
- ◆営業体制の不整備・販売方針の不徹底
⇒販売台数が伸び悩み、結果、計画未達

今後の見通し

- ◆資金難にあえぐホール店舗のコスト負担の軽減を目的とした積極的な面替営業を行い、ホール店舗の信頼を醸成し、定期的な機械の入替意欲を促進
- ◆新規顧客開拓の対策として、レンタル、販売のそれぞれに特化した営業部隊を結成し、レンタル最低設置台数の引き下げによる潜在顧客の増大を図るなど、営業体制を抜本的に再構築
- ◆新人をはじめとする営業社員の管理・教育・指導を本社が直接行うことで、迅速な対応のできる組織作り
- ◆パチンコ市場に再参入し、“アルゼらしい”新型製品を投入
⇒下期において、パチスロ機15万台、パチンコ機5万台の販売を計画（下記参照）

パチスロ機発売タイトル	投入時期	上半期導入実績(既発売機種含む)
・アレックス7R ・キングガッパ ・アルティメットブレイク拳	平成20年 4月 平成20年 5月 平成20年 5月	Q1 総計⇒10,700台
・ゲッターロボ ・パチヘビノッチ ・怒濤の剣	平成20年 7月 平成20年 8月 平成20年 9月	
・8タイトル(予定)	下期	
パチンコ機発売タイトル	投入時期	上半期導入実績(既発売機種含む)
・タイトル未発表	下期	下期計画50,000台

直近のパチスロ機発売タイトル



①国内パチスロ・パチンコ事業

営業強化策

1 営業体制 (営業力)

レンタル新規開拓・販売専門・既存取引先専門に分轄
戦力の集中と情報収集力向上による体制強化

2 ロケーション (機械力)

販売前に市場でのロケーションテストを実施
市場で一定の評価を得た商品のみを投入

3 開発・営業協力体制 (開発力)

開発営業プロジェクト推進室を新設。営業が入手した情報を
開発部門と共有し、開発力の強化

4 レンタル商品改訂 (商品力)

市場の状況を迅速につかみ、市場にあわせたレンタル商品を
一部改訂し、マーケット訴求力を向上
[機種導入台数5台以上から可能・チェーン店間機械移動自由化]

5 パチンコ (新規参入)

今期中に本格的にパチンコを投入
販売体制を構築し、戦力投入を行う

②海外カジノ向けゲーミング機器事業

今年度中に海外カジノ向けゲーミング機器事業を軌道に乗せ、世界一のゲーミング事業会社となるべく下記の施策を実施

【施策①】新しいゲームコンセプト導入による、アルゼブランドのさらなる進化

- ・大人気レスキューペイのシリーズ化として、払い戻し&フリーゲームの両方を還元する保証システム“レスキュー-spin”など、画期的な機能を実装したアイデア商品を展開



【施策②】米国・マカオを軸に海外4拠点でグローバルな事業展開

1. アジア市場
 - ・今や売上高世界一となった成長著しいマカオに本年11月に営業拠点を開設し体制づくりを行っていく
 - ・お客様への迅速かつ密な対応で販売拡大を目指す
2. 北米市場
 - ・ネバダ州での通信テストを経て本格的に販売開始。いよいよ米国市場再参入となる
 - ・新販売体制を11月を目処に 整え、認可済みタイトル数を次々と増やす(現時点では4機種)
 - ・インディアンカジノにおいては人気のタイガーシリーズで販売拡大を目指す
3. アフリカ市場
 - ・南アフリカ国内にとどまらず、積極的に販売
 - ・アルゼの前身であるユニバーサル時代の人気機種の復刻版をリリースし、従前のマーケットシェア奪回を目指す
4. オセアニア市場
 - ・8月24日に開催された豪AGEゲーミングショーに当社製品を出展し、好評を博す
 - ・G-WAVEトーナメントマシーンで、アルゼブランドの確立



【施策③】新タイトルの開発強化

- ・マーケットトレンドになりつつある、マルチラインのビデオゲームを順次発表予定

【施策④】フィリピン工場

- ・フィリピン工場(AGA Philippines, Inc.)を開設し、本年12月稼動予定
- ・生産コストの削減と製造拠点の集約を図る

③カジノリゾート運営事業(WYNN)

WYNNが現在保有・運営するリゾート



ウイン・ラスベガス



ウイン・マカオ

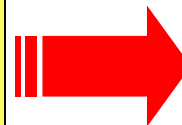
WYNNのQ2における各リゾート単体状況

Q1に続く顧客の勝ち分の比率上昇等により、単体売上がUS\$295,261,000へと前年同期より11.9%減少したものの、Q1赤字であった営業利益はUS\$20,299,000の黒字を確保

単体売上が前年同期比50.3%増のUS\$529,896,000、営業利益が93.4%増のUS\$102,943,000等、好調を維持

その他2008年Q2のハイライト:

- ①記録的な総売上(US\$825,160,000)
- ②マカオにおけるゲーミング税の還付額US\$140,700,000
⇒WYNNのQ2までの純利益US\$318,710,000
(約333億3,700万円)



当社は株式保有率22.7%に基づく持分割合相当額として6,713百万円の持分投資利益を営業外収益として計上

③カジノリゾート運営事業(WYNN)

- ① ウィン・ラスベガス、ウィン・マカオがそれぞれの市場で強い競争力を発揮し続けており、当社は今後も好業績の維持による安定な利益寄与を期待

		2008年度Q2	
		客室単価	客室稼働率
ラスベガス	ウィン・リゾート (ウィン・ラスベガス)	US\$302	96.5%
	ラスベガス・サンズ (ベネチアン・ラスベガス、パラッツォ)	US\$244	91.8%
	MGMミラージュ (ラスベガス・ストリップ沿いホテル平均)	US\$155	97.0%
	<参考>市場平均	US\$128	89.7%
マカオ	ウィン・リゾート (ウィン・マカオ)	US\$277	87.9%
	ラスベガス・サンズ (ベネチアン・マカオ)	US\$225	80.2%
	メルコPBL (クラウン・マカオ)	US\$236	97.0%
	<参考>市場平均	US\$86	75.4%

- ②ラスベガス、マカオの主要市場における開発プロジェクトが順調に進行
両プロジェクトとも資金調達完了

ラスベガス⇒

「アンコール・アット・ウィン・ラスベガス」

- ・投資総額US\$23億
- ・2,034室
- ・2008年12月22日オープン予定

マカオ⇒

「アンコール・アット・ウィン・マカオ」

- ・投資総額US\$7億
- ・400室
- ・2010年前半オープン予定

Point:

ウィン・リゾートが自己株式の取得を継続的に行っていることにより、同社発行済株式数が減少。これに伴い、当社の持分率が増加(Q1末22.0% → Q2末22.7%)



持分法投資利益による利益寄与の増大が期待できる

③カジノリゾート運営事業(フィリピン)

フィリピンにおけるカジノプロジェクト

1. フィリピンにおける当社独自でのカジノリゾート運営を計画
2. 世界最高級の施設建設・運営を実現するため、各分野の第一線の専門家を中心としたプロジェクトチームを社内に設置して推進

◆カジノプロジェクトの概要

(1) 取得用地	「バゴン・ナヨン・フィリピン・マニラ・ベイ・ツーリズム・シティ」の隣接地	
(2) 主要施設	2,000室のホテル、床面積20,000平米強のカジノ、床面積3,000平米のボールルーム (マニラ地区最大)、水族館(アジア最大級)、美術館、スポーツ施設、観覧車、ショッピングモール等	
(3) 事業規模	総額2,500億円程度を想定	
(4) スケジュール	平成20年4月	概要設計開始
	平成20年7月	用地取得(約30ヘクタール)
	平成20年8月	暫定ライセンス取得、詳細設計開始
	平成21年3月	設計完成
	平成21年4月	見積完了、工事着工
	平成23年11月	カジノリゾート開業予定

③カジノリゾート運営事業(フィリピン)



完成予想図(ガーデンビュー)

狙い

- ・アジア地域の観光客の増加に着目
- ・中国を中心としたアジアの経済成長による富裕層の受け皿
- ・アジアの主要都市から等距離、風光明媚な環境で究極のホスピタリティを提供
- ・世界一のカジノリゾートを造る

コンセプト

- ・地元への貢献
水族館、子供向け施設、観覧車等
- ・VIP客向け、一般客向けの施設を分離
WYNNでの経験を活かした超一流施設を中心とする
- ・自然との調和と環境への配慮を重視



完成予想図(エントランスビュー)

平成21年3月期業績予想

連結

単位:百万円

	通期
売上高	62,000
営業利益	10,000
経常利益	18,000
当期純利益	11,000

単体

単位:百万円

	通期
売上高	26,000
営業利益	2,800
経常利益	2,800
当期純利益	1,700

下期における課題:

- ①パチスロ: 訪店徹底で新規モデルの積極的な面替営業を行い、ホール店舗の信頼を醸成、定期的な機械の入替意欲を促進
⇒15万台の市場導入を計画
- ②パチンコ: 稼動が順調に推移するパチンコ市場に、従来にはない画期的な新型モデルを投入
⇒5万台以上の販売を計画
- ③海外向けゲーミング機器: 本年11月のG2Eショー(ラスベガス開催)等で製品を全面アピール、マカオの新設拠点を通じてカジノ需要の拡大に対応
⇒本格的な事業展開を開始

【IV】参考資料

会社概要

本 社:	〒135-0063 東京都江東区有明3-1-25 有明フロンティアビル		
設 立:	1973年6月		
従業員数:	連結1,332名 単体200名 (2008年9月30日現在)		
グループ事業所:	工場 2 / 支店 24 / 海外拠点 3		
発行済株式総数:	80,195,000 株 (2008年9月30日現在)		
株 主 数:	5,873人 (2008年9月30日現在)		
大口株主: (2008年9月30日現在)	氏名	所有株式数	所有割合 (%)
	岡田 和生	25,228,300	31.5%
	岡田 知裕	23,615,600	29.5%
	ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	7,263,200	9.0%
	岡田 裕美	5,325,000	6.6%
	横塚 ヒロ子	2,390,000	3.0%
	モルガン・スタンレーアンドカンパニーインク	1,215,400	1.5%
	ジェーピー モルガン チェース バンク	879,600	1.1%
JASDAQ・コード:	6425		
URL:	http://www.aruze.com/		
問合せ先:	TEL: 03-5530-3055 (代表) E-mail: ir@aruze.com		